

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成25年5月10日現在

機関番号：14403
 研究種目：基盤研究（C）
 研究期間：2009～2012
 課題番号：21520189
 研究課題名（和文） ことば遊び文献資料の調査および文学作品におけるその受容の研究
 研究課題名（英文） Research on the Materials about Plays on Words and Study
 on Plays on Words in Japanese Classics
 研究代表者
 小野 恭靖（ONO MITSUYASU）
 大阪教育大学・教育学部・教授
 研究者番号：50194600

研究成果の概要（和文）：

ことば遊びにかかわる文献資料の収集を精力的におこない、多くの貴重な資料を収集した。その結果、これまで未紹介であった「鈍字」や「文字絵」にかかわる複数の資料を紹介し、位置付ける複数の論文を発表した。また、幼児向けの絵本『さかさことばのえほん』、中学・高校生向けの入門書『ことばと文字の遊園地』の他、文学作品中に見られることば遊びに言及した『戦国時代の流行歌』を刊行するとともに、多くの講演や講義によってことば遊びについて話す機会を持つこともできた。

研究成果の概要（英文）：

I collected and researched old rare books on plays on words. As a result I introduced unknown important materials about “Donji” and “Mojie”. Studying them I wrote reports which explained the contents. Also, I wrote “Sakasakotoba no Ehon” for small children and “Kotoba to Moji no Yuuenchi” for junior high school and high school students. And I wrote “Sengokujidai no Ryukouka”, which was referred on plays on words seen in Japanese classics. Besides, I had many opportunities to lecture about plays on words.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	1,200,000	360,000	1,560,000
2010年度	900,000	270,000	1,170,000
2011年度	600,000	180,000	780,000
2012年度	500,000	150,000	650,000
年度			
総計	3,200,000	960,000	4,160,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文学・日本文学

キーワード：ことば遊び、しゃれ、なぞ、判じ物、回文、鈍字、文字絵、倒言

1. 研究開始当初の背景

日本語は同音異義語が多く、ことば遊びに富んだ言語とすることができる。このため、古来数多くのことば遊びが行われて来た。古典作品をはじめとする多くの文学作品に

も、かなりの分量のことば遊びを指摘することができる。その意味でことば遊びは日本古典文学の中の重要な研究視点のひとつと言ってよい。しかし、これまでことば遊びを学術的かつ体系的に採りあげた研究者はほと

んどいない。日本語のことば遊びの種類には「しゃれ」「なぞ」「判じ物(判じ絵)」「回文」「文字絵」「鈍字」「舌もじり」「尻取り」などがあるが、それらに関わる近代以前の文献資料も数多く残されている。しかし、それらの貴重な文献を調査し、紹介した研究者も一部を除いてほとんどいない状態である。あえて言えば、その一部について紹介した数少ない先達として、鈴木棠三氏、岡雅彦氏、岩崎均史氏の名を挙げることができるのみである。三氏のうち、鈴木棠三氏は『ことば遊び辞典』(東京堂出版・1959年)の中で「しゃれ」「なぞ」に関わる数種類の文献資料を翻刻紹介し、位置付けられた。また、岡雅彦氏も諸論文の中で「なぞ」に関わる数多くの文献資料を紹介された。一方、岩崎均史氏は『江戸の判じ絵—これを判じてごろうじろ—』(小学館・2004年)の中で「判じ物」に関わる数多くの文献資料を整理し紹介された。このように三氏は、日本語のことば遊びに関わる未紹介の文献資料の内容を公開することによって、日本語のことば遊びの史的展開の解明に尽くされたと言える。

しかし、残念ながら鈴木氏、岡氏、岩崎氏の活躍にもかかわらず、日本文学におけることば遊びの史的研究はいまだ端緒についたばかりの状況と言える。それと言うのも、数多くの種類のあることば遊びのうち、三氏によって紹介されたものは「しゃれ」「なぞ」「判じ物」に関わるごく一部の文献資料であり、「回文」「文字絵」などの文献資料は、いまだほとんど調査されていないからに他ならない。また、「しゃれ」「なぞ」「判じ物」についても未紹介の文献資料が数多く残されている状況がある。

2. 研究の目的

研究代表者は『ことば遊びの文学史』(新典社・1999年)、『ことば遊びの世界』(新典社・2005年)の二書を刊行し、それらの著書の中で、従来未紹介であった「判じ物」「回文」にかかわる写本・板本などのことば遊びを集成した文献資料を調査し、文学史的な位置付けを行った。しかし、「判じ物」「回文」に関しても未調査の文献資料もいまだ多く存在している。

本研究では4年間という期間を最大限に生かして、研究代表者がこれまで取り組んできた「判じ物」「回文」関係文献資料の調査のみならず、「文字絵」「しゃれ」「なぞ」を含む広範な日本語のことば遊びを集成した文献資料を調査し、それら資料の位置付けを行うことを課題とする。また、文献調査が一段落した時点で、江戸時代の文学作品、とりわけ笑話本や黄表紙などの中に見られる具体的なことば遊びを抽出して、ことば遊びを

集成した文献資料に見られる例との関連を検討し、日本語のことば遊びを立体的に把握する。最終的には、ことば遊び研究を文学研究に生かしていくことを目的とする。

3. 研究の方法

日本語のことば遊びは、文学作品の読解に欠かすことができない要素である。そのため従来のことば遊び研究も、主として文学作品の中に見られる例の分析を中心に細々と進められて来た経緯を持つ。本研究は、まず文学研究から独立した文献調査という方法を採用する。その際、日本語のことば遊びを集成した広範な文献資料を調査し、それら資料の位置付けを行う。また、同時代に成立した文学作品との関連を押さえる。この方法により、ことば遊びを文献資料と文学作品の両者によって立体的に位置付けていく。

4. 研究成果

日本語のことば遊びにかかわる古文献資料(写本、版本)の収集とその調査を行った。まず日本各地の図書館や文庫に所蔵されることば遊び関連の古文献資料(写本、版本)の複写収集とその調査を中心的に行った。具体的には『白癡問答』(東北大学狩野文庫蔵)、『回文集』(東北大学狩野文庫蔵)、『回文歌僊』(松宇文庫蔵)、『回文発句集』(松宇文庫蔵)、『回文一送』(松宇文庫蔵)、『和歌回文百首』(大阪市立大学森文庫蔵)、『鈍字集春の寿』(東京芸術大学脇本文庫蔵)、『仮名はんじものなぞなぞ』(上田図書館花月文庫蔵)、『新法狂字図句画』(名古屋市蓬左蔵)等の複写を入手して調査を実施した。

また、和本資料の直接購入による収集も同時に行った。具体的には『小野篁歌字尽』『訓蒙夷曲歌字尽』『名家合作地口画譜』『新案地口のひな形』『なぞづくし』『謎々春の雪』『なぞなぞ春乃雪 式篇』『春の雪なぞなぞ合』『画本なぞなぞ合』『新板なぞなぞ合』『なぞ合名所百景』『新作改良謎かけ』『鈍字集初篇』『鈍字画』『文字絵集』『いろはかなしりとり都々逸』『浪花みやげ』『吾妻土産』『道楽寺阿房陀羅経』『かぞえうた いろはうた』『流行ゑんかいなぶし』等の冊子本と『新板なぞづくし(第四編~第十三編)』『忠臣蔵五段目口合文句』『浮世風流貝づくし』等のことば遊び関連の瓦版、さらには『ちんわん節』『宝舟図回文入』といった一枚摺り版画の他、野々口立圃筆の回文短冊を収集した。

さらに、近代以降の日本語のことば遊び関連資料として『むりもんど考』『日本文学遊戯大全 語呂合、回文、謎、冠附』『娯楽文庫 新考物(なぞなぞ)』『児戯叢考』『どっこい地口は生きている』『句弄藻創録』『回

文源氏物語』『回文日本紀行』『おもしろ回文川柳』『上から読んでも下から読んでも』『脳を鍛えるさかさことば』『脳を鍛える言葉遊び』『人名名人 人名アナグラム集』『お江戸はやくちことば』『感字非常識百科』『伊藤勝一の漢字の感字』『落語のレトリック』『あいうえお作文』などを収集するとともに、『図鑑 日本語の近代史』『日本語大博物館』『国字の位相と展開』などの日本語の特徴に直接切り込んだ著作の収集もおこなった。

以上の文献収集の成果として『鈍字画』小考(『大阪教育大学紀要(第I部門)』58巻2号)、「文字絵資料続考—『文字絵集』(仮称)と『源平文字絵』—」(『学大国文』53号)の二編の拙稿を執筆した。拙稿中には当該の資料を紹介するとともに、日本語のことば遊び史上に位置付けた。一方、既に収集していた『どふけ一筆がき』『しん板文字五十三次』という文献資料二種の紹介と位置付けもおこない、『大阪教育大学紀要(第I部門)』第59巻第1号に「文字絵資料再考」と題する論文を発表した。また、野々口立圃筆の回文短冊についても紹介論文を2013年3月に執筆した(2013年9月発行予定)。

また、論文以外の執筆活動もおこなった。まず、医療生協情報誌「comcom」誌上に2010年4月から2012年3月の2年間にわたり「ことば遊びクイズで脳トレーニング」を連載した。その連載では「二段なぞクイズ」「三段なぞクイズ」「回文クイズ」「判じ絵クイズ」「字謎クイズ」「文字絵クイズ」「アナグラムクイズ」「折句クイズ」「物名クイズ」「脚韻クイズ」「無理問答クイズ」「鈍字クイズ」などを出題して、好評を博すことができた。

研究成果は論文やその他の執筆活動以外にも講演によって発表した。2009年から2012年にかけて毎年開催された「伊丹ことばあそび大会」で、市民から公募したことば遊び作品の選考に携わるとともに、講演を担当し、本研究で得ることができた新知見も含めて話した。具体的な演題は2009年10月10日が「折句題の系譜—「い」「た」「み」で作る俳句と川柳」、2010年10月3日が「ことばあそびへの招待—倒言の世界—伊丹素敵、来て住みたい」、2011年10月10日が「なぞかけの世界—“伊丹”とかけて何と解く」、2012年9月22日が「虫のことばあそび—折句題の楽しみ—」であった。このうち、2011年開催の「伊丹ことばあそび大会」については、「神戸新聞」平成23年10月12日朝刊に「昆陽とかけて—ラブレターの返事と解く」と題した記事の中で写真入りで紹介された。

また、伊丹市においては、2009年から2012年にかけての「ラスト教養大学講座」でも毎年ことば遊びに関わる講座を1回ずつ開催した。具体的には、2009年11月9日に「ことば遊びの世界」、2010年10月18日と2011年4月25

日に「日本語を楽しむ」、2012年10月1日に「ことばあそびで脳トレーニング!」と題する講座を実施した。この間の2010年3月20日には「第6回伊丹アピールフォーラム」において「ことばとあそぼう!—“判じ絵”“回文”“折句題川柳”」という公開講演も実施した。

その他の講演活動としては、2009年11月23日の「大阪教育大学日本アジア言語文化学会」において「日本語を楽しむ」という題目の講演を行った他、2010年2月5日の「柏原市フローラル市民大学講座」において「日本語を楽しもう!」、2011年3月11日の「京田辺市中央公民館講座」において「ことば遊びで脳トレーニング!」、2011年5月20日の「阿倍野市民セミナー」において「ことば遊びで脳トレーニング!—日本語の洒落や回文の面白さを楽しもう」、2011年7月30日の「大正区女性学級」において「ことば遊びで脳トレーニング!」、2012年7月13日の「阿倍野市民セミナー」において「ことば遊びで脳トレーニング! part II—“なぞ”と“文字遊び”」、2012年10月7日の「たばこと塩の博物館(東京都渋谷区)展示関連講演会」において「ことば遊びの系譜:中世~近世」などの講演をおこなった。以上のうち、2012年の「阿倍野市民セミナー」の様子は「大阪日日新聞」朝刊の「ことば遊びで脳トレーニング なぞなぞなど解説」という見出しを持つ記事として写真入りで紹介された。また、たばこと塩の博物館の講演では折から開催されていた「江戸の判じ絵展」を彩ることができた。

2011年8月1日と翌2012年8月2日には大阪教育大学柏原キャンパスにおいて「大阪中学生サマーセミナー(大学コンソーシアム大阪主催)」を催し、公募で集まった中学生を相手に「ことばで遊ぼう!」の講座を開講した。さらには高校生向けの模擬授業でも日本語のことば遊びについて講義した。具体的には2009年7月26日に大阪教育大学オープンキャンパスで「ことば遊びへの招待—回文とアナグラム」、2009年10月15日に大阪府立寝屋川高等学校向けに「日本語と遊ぶ」、2010年9月10日に和歌山県立橋本高等学校向けに「日本語を楽しもう!」、2011年8月25日に富山県立水橋高等学校向けに「日本語を楽しもう!」の講義を実施した。

さらに、「読賣新聞」平成23年6月5日朝刊掲載の「ニヤリ「だじゃれ」行灯」と題する記事の中で、小著『ことばと文字の遊園地』(新典社)が紹介された。さらにフジテレビ系列のテレビ番組「1年1組平成教育学院」(平成23年6月26日放送)において、「なぞなぞの歴史」「判じ絵の歴史」の監修を行った。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 10 件)

小野恭靖、ことばを遊ぶ、ことばと遊ぶ (番外編 2) — 呉音と漢音 —、桐、査読無、50 号、2012、25—28、

小野恭靖、新出大阪版おもちゃ絵の歌謡資料紹介、大阪教育大学紀要 (第 I 部門)、査読無、60 巻 2 号、2012、101—105

小野恭靖、新出おもちゃ絵の歌謡考 — 『新板小供うたづくし』 紹介 —、大阪教育大学紀要 (第 I 部門)、査読無、60 巻 1 号、2011、93—97

小野恭靖、ことばを遊ぶ、ことばと遊ぶ (番外編) — 文字書き歌について —、桐、査読無、47 号、2010、7—11

小野恭靖、文字絵資料再考 — 『どふけ一筆がき』 『しん板文字五十三次』 —、大阪教育大学紀要 (第 I 部門)、査読無、59 巻 1 号、2010、141—152

小野恭靖、「日本語ブーム」が後世に残すもの、日本語学、査読無、29 巻 5 号、2010、46—52

小野恭靖、文字絵資料続考 — 『文字絵集』 (仮称) と 『源平文字絵』 —、学大国文、査読無、53 号、2010、3—14

小野恭靖、『鈍字画』 小考、大阪教育大学紀要 (第 I 部門)、査読無、58 巻 2 号、2010、97—114

小野恭靖、ことばを遊ぶ、ことばと遊ぶ (10) — ミステリ文学とことば遊び —、桐、査読無、45 号、2009、1—4

小野恭靖、ことばを遊ぶ、ことばと遊ぶ (9) — 文字絵・木綿襷 —、桐、査読無、44 号、2009、1—4

[学会発表] (計 0 件)

[図書] (計 3 件)

小野恭靖、『戦国時代の流行歌』、中央公論新社、2012、234

小野恭靖、『ことばと文字の遊園地』、新典社、2010、160

小野恭靖、『さかさことばのえほん』、鈴木出版、2009、30

6. 研究組織

(1) 研究代表者

小野 恭靖 (ONO MITSUYASU)

大阪教育大学・教育学部・教授

研究者番号：50194600